

具象画家

ベルナール・ビュフェ

—ビュフェが描いたもの—

2021年4月10日(土)

—2022年3月6日(日)

ベルナール・ビュフェ美術館



世界随一を誇る当館のコレクションから、ビュフェが描いたモチーフ、テーマを焦点に構成。同時に、初期から晩年までのビュフェの人生、画風の変遷を追うことができる展覧会です。開催中は、全館で100点超の作品をお楽しみいただけます。

具象画家 ベルナル・ビュフェ ビュフェの描いた「かたちあるもの」を見つめる

新館展示室



《肉屋の少年》 1949年 油彩

長いあいだ「絵」といえば、姿のあるもの、目に見えるものを描くことでした。しかし20世紀初め、「具体的なものの姿を描き写すことをしない」抽象絵画が登場すると、ものの姿を描いた絵は「具象絵画」と呼ばれるようになります。第二次世界大戦後には、時代の流れは具象から抽象へ、そして芸術の発信地はパリからニューヨークへ移りつつありました。ベルナル・ビュフェが画家としてデビューしたのは、パリの美術界が大きく揺らいでいた、そんな時代だったのです。

抽象と具象があたかも対立するもののように扱われた当時、抽象の趨勢に対抗すべく具象の新しい力を求めていた人々は、若き具象画家の登場を歓迎し、スターへと押し上げます。ビュフェ自身も具象にこだわり、生涯を通じてありとあらゆる「かたちあるもの」を描き続けました。

しかしあるインタビューで「抽象絵画をやってみようと思ったことはないのか？」と問われたビュフェは、こんな風に答えています。

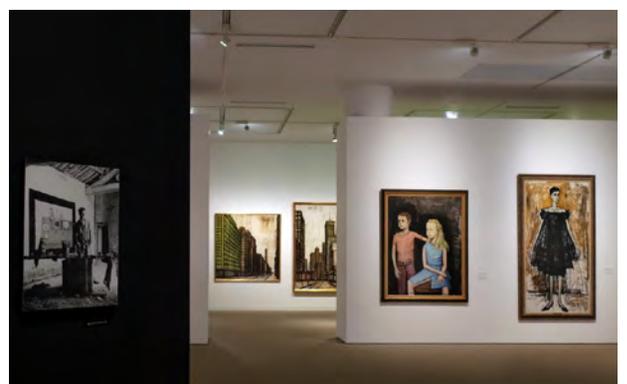
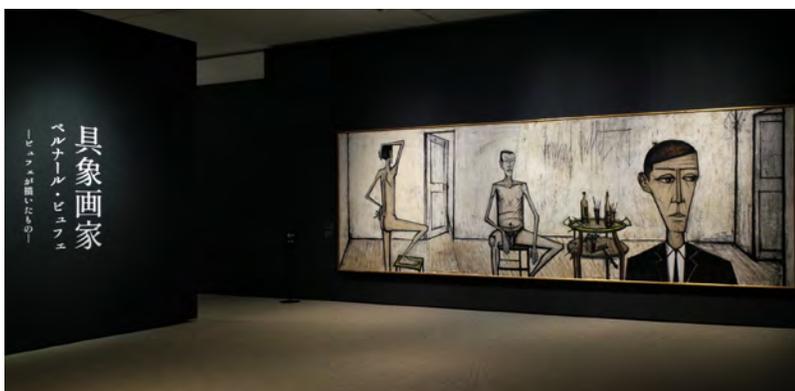
ありません。絵画作品はすべて“抽象”です。

具象絵画は誰にでも理解できるものでなければならない。

同時に、そこに人々が何かを見出すことができなければならないのです。

すべての芸術が“抽象”であるというのは、この意味においてです。

ビュフェの作品に、今の私たちは何を見出すでしょうか。ビュフェの描いた「かたちあるもの」をあらためて見つめ、それぞれの作品と向き合ってみる展覧会です。



新館展示室のようす

HIGHLIGHTS

「ベルナール・ビュフェ」を生んだ時代

本館 中展示室

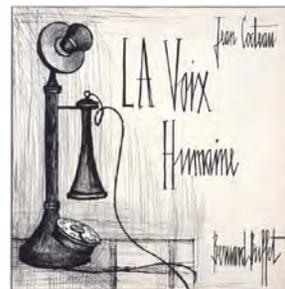
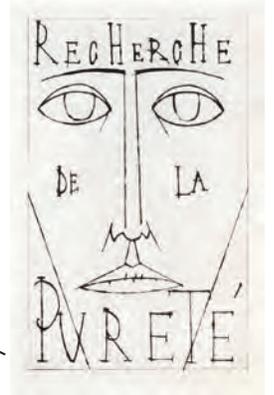


本館・中展示室のようす

来館者が最初にビュフェに出会う導入部となる本館・中展示室では、初期の作品を中心に「ベルナール・ビュフェ」を生んだ時代を振り返ります。

戦後、新たな文化の星が求められていた1940年代末から1950年代、ビュフェは批評家賞の受賞をきっかけに批評家、文化人、美術収集家などから支持され、一躍人気画家となりました。当時の若者の心をとらえていたサルトルやカミュの思想とも結びつき、その人気は一般大衆にもひろがって、ビュフェは時代のシンボルとなっていきました。敬愛する小説家ジャン・ジオノの作品をドライポイント（銅版画）21点で表現した版画集『純粹の探究』（1953年）、芸術の魔術師ジャン・コクトーの戯曲を独特のカリグラフィ

《純粹の探究》
1953年
ドライポイント



《人間の声》
1957年
ドライポイント

と挿画で表現した版画集『人間の声』（1957年）など、ビュフェと同時代の文化人、芸術家との交流から生まれた共同作品は、まさに時代を彩った傑作です。またフランソワーズ・サガン原案のバレエ（1958年）、マルセイユ・オペラ劇場の「カルメン」（1962年）の舞台装置や衣装の制作にも取り組み、ビュフェの活躍は多岐に渡りました。画家をめざし、カンヴァスや絵の具にも不自由しながらひとり部屋にこもって制作を続けていた青年は、わずか10年の間に時代の寵児へと押し上げられることになったのです。



戦後の具象画壇を代表するフランスの画家ベルナール・ビュフェ（Bernard Buffet、1928 - 1999）。画面を削るようなすどい線と抑制された色づかい、虚飾を配した独自の人物描写によって、戦後の人々の不安感や虚無感を体現し、19歳で批評家賞を受賞、一躍有名画家となりました。その黒い線と強烈な表現は、フランスはもちろん、日本でも大きな衝撃をもって迎えられました。

【広報用画像資料】

広報用にお使いいただける画像をご用意しています。

お申込み、お問い合わせについては次ページをご覧ください。

クレジット表記は各画像下の内容をご利用ください。（原題表記が必要ななどの場合お問い合わせください）



1 《肉屋の少年》1949 油彩



2 《サーカス：パレード》1955 油彩



3 《緑のある風景》1962 油彩



4 《ピカドール》1962 油彩



5 《モンマルトル、モンマルトルのサクレ=クール教会堂》1967 油彩



6 《ひまわり》1988 油彩

【広報用画像資料申し込み用紙】

前ページ掲載の作品について画像資料（デジタルデータのみ）をご用意しています。

ご希望の場合は□にチェック を入れ、必要事項をご記入の上、FAXにて055-987-5511まで、あるいは必要事項と画像の番号をE-mailにてinfo@buffetmuseum.or.jpまでお申し込みください。

- お願い
- ・クレジット表記は前ページ画像下の情報をご利用ください。
 - ・掲載誌一部をご送付ください／掲載サイトのURLをお知らせ下さい。
 - ・取材にご来館くださる場合は事前に担当者までご一報ください。

貴媒体名

掲載号 発売・公開日等 年 月 日

貴社名 ご担当者名

Tel Fax

E-mail

ご住所

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 1 《肉屋の少年》1949 油彩 | <input type="checkbox"/> 2 《サーカス：パレード》1955 油彩 |
| <input type="checkbox"/> 3 《緑のある風景》1962 油彩 | <input type="checkbox"/> 4 《ピカドール》1962 油彩 |
| <input type="checkbox"/> 5 《モンマルトル、モンマルトルのサクレ=クール教会堂》1967 油彩 | <input type="checkbox"/> 6 《ひまわり》1988 油彩 |

FAX : 055-987-5511 / E-mail : info@buffetmuseum.or.jp

【お問い合わせ】

展覧会担当：杉崎（すぎざき）
雨宮（あまみや）
井島（いしま）

ベルナール・ビュフェ美術館
静岡県駿東郡長泉町東野クレマチスの丘 515-57
TEL 055-986-1300
info@buffetmuseum.or.jp

GENERAL INFORMATION



ベルナル・ビュフェ美術館 <https://www.clematis-no-oka.co.jp/buffet-museum/>

〒411-0931 静岡県長泉町東野クレマチスの丘 515-57 TEL 055-986-1300 FAX 055-987-5511

- 入館料 大人：1,000円（900円）高・大学生：500円（400円）中学生以下：無料（ ）内は20名様以上の団体割引
- 休館日 水曜日（ただし5月5日（祝・水）は開館し翌6日を休館、11月3日（祝・水）を開館し翌4日を休館）
年未年始（休館期間は決まり次第ウェブサイトでお知らせします）
- 開館時間 10：00～18：00（4～8月）／10：00～17：00（9・10月）10：00～16：30（11・12・1月）
／10：00～17：00（2・3月） 入館は閉館の30分前まで

【同時開催中の企画展／別館企画展示室】

丸木スマ展
70歳で開花した絵心
今が花よ
わしゃ、

明治8年（1875）生まれ、70歳を過ぎて初めて絵筆をとった丸木スマ。絵を描くことに魅せられ、「絵を描きはなえてから（はじめてから）、面白うての。こりゃ、まだまだ死なりやせん思うて。わしゃ、今が花よ」と言いました。そんなスマの姿からは、いつでも新たに芽吹くことができる人間の可能性と、生きることのすばらしさが伝わってきます。スマが愛し、謳歌したその絵の世界をお楽しみください。

2021年4月24日（土）～9月28日（火）

<https://www.clematis-no-oka.co.jp/buffet-museum/exhibitions/1566/>